

橘湾周辺の海底地形と海底地質構造*

The submarine topography and geological structure around Tatibana Bay

海上保安庁水路部

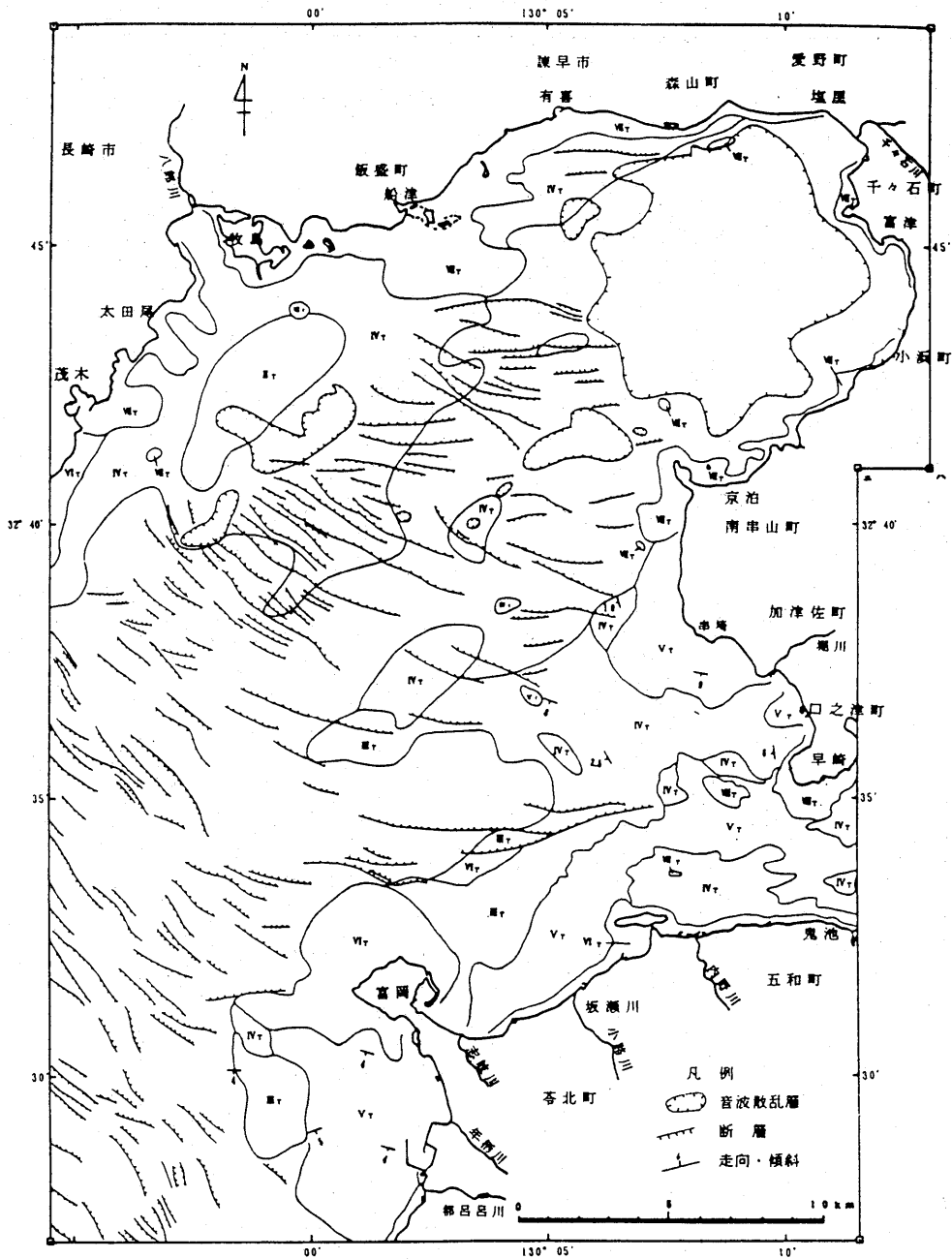
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

橘湾の海底地形は水深35m前後で極めて平坦であり、その南側の早崎瀬戸は強い潮流のため侵食され、海釜地形が発達して海底面の凹凸が激しい。早崎瀬戸の西側には、潮流により運搬されてきた土砂が厚さ最大30mまで堆積し、緩やかな丘や細長い凹地が形成されている。

堆積層の分布境界は、最終氷期最大海退期以降に堆積した堆積層を取り除いたものを示した。ほとんどの海域は沖積層（第Ⅰ層）や後期更新世（第Ⅱ層）のやわらかい堆積物に覆われているが、早崎瀬戸周辺では潮流により侵食され、古第三紀（第Ⅵ層）～中期更新世（第Ⅲ層）の地層が現れている。Ⅶ層は長崎県側の海岸線付近に分布する露岩であり、第四紀の長崎火山岩類、南島原火山岩類に対比され、Ⅷ層は瀬詰崎の周辺及びその沖合いに分布し、新第三紀の火山岩層（大泊玄武岩）に相当すると考えられる（第1, 2図）。

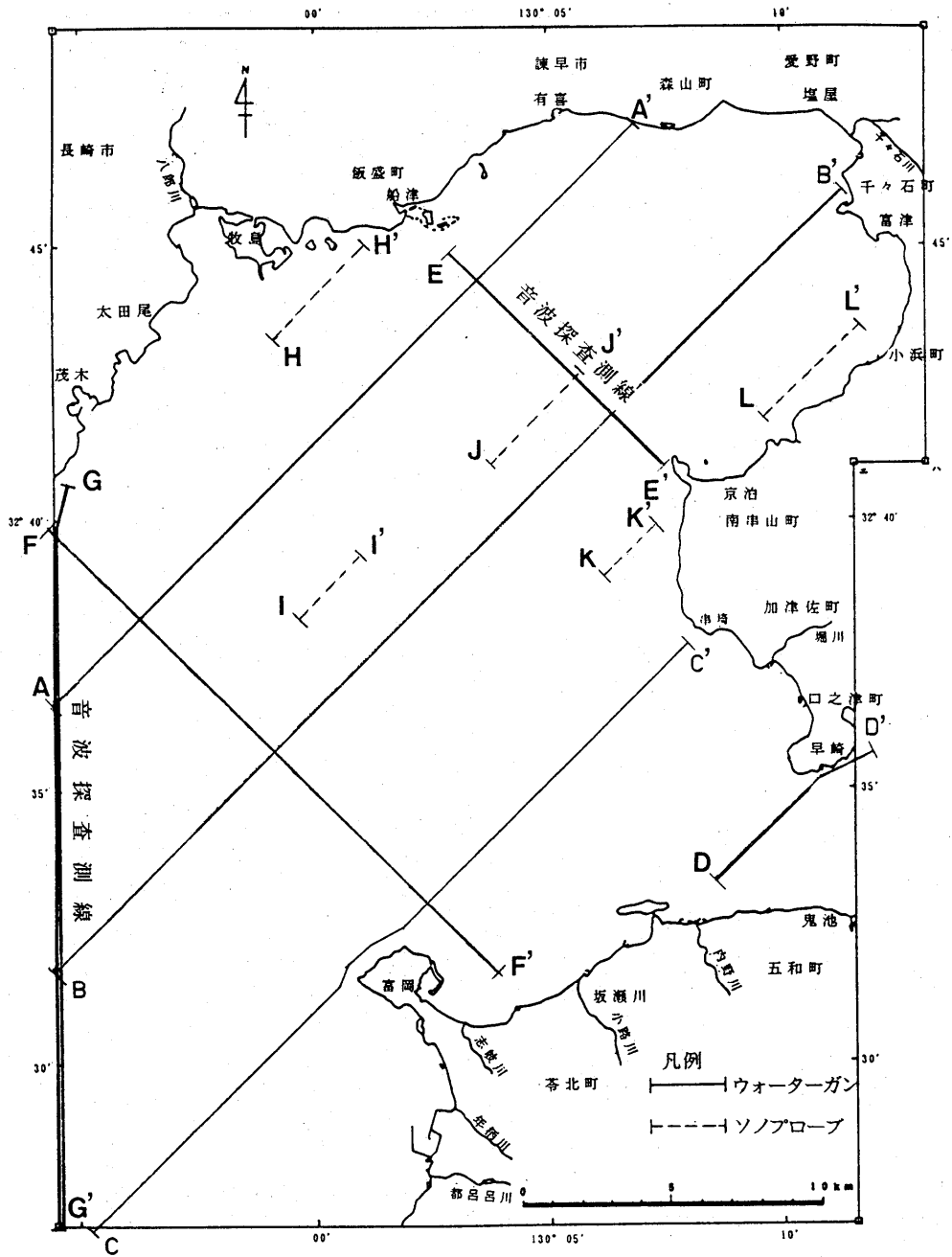
橘湾の海底下には音波散乱層が広く分布しているため、海底地質構造は明確に現れていない。1991年の調査では橘湾に金浜断層の延長と見られる断層と、フリーエアー重力異常から陥没構造が推測されたが、今回（1993）年の調査では測線と音波散乱層の位置関係から、橘湾の陥没構造や金浜断層は確認できなかった。天草下島の四季咲岬沖合いより北側には北北東落ちの正断層群が、南側には南西落ちの正断層群が存在し、四季咲岬沖合いを中心に両側が落ち込んでいるような地質構造が見られる。第3図に示した堆積層断面には、このような正断層が数多く見られる。

* Received 14 Apr., 1994



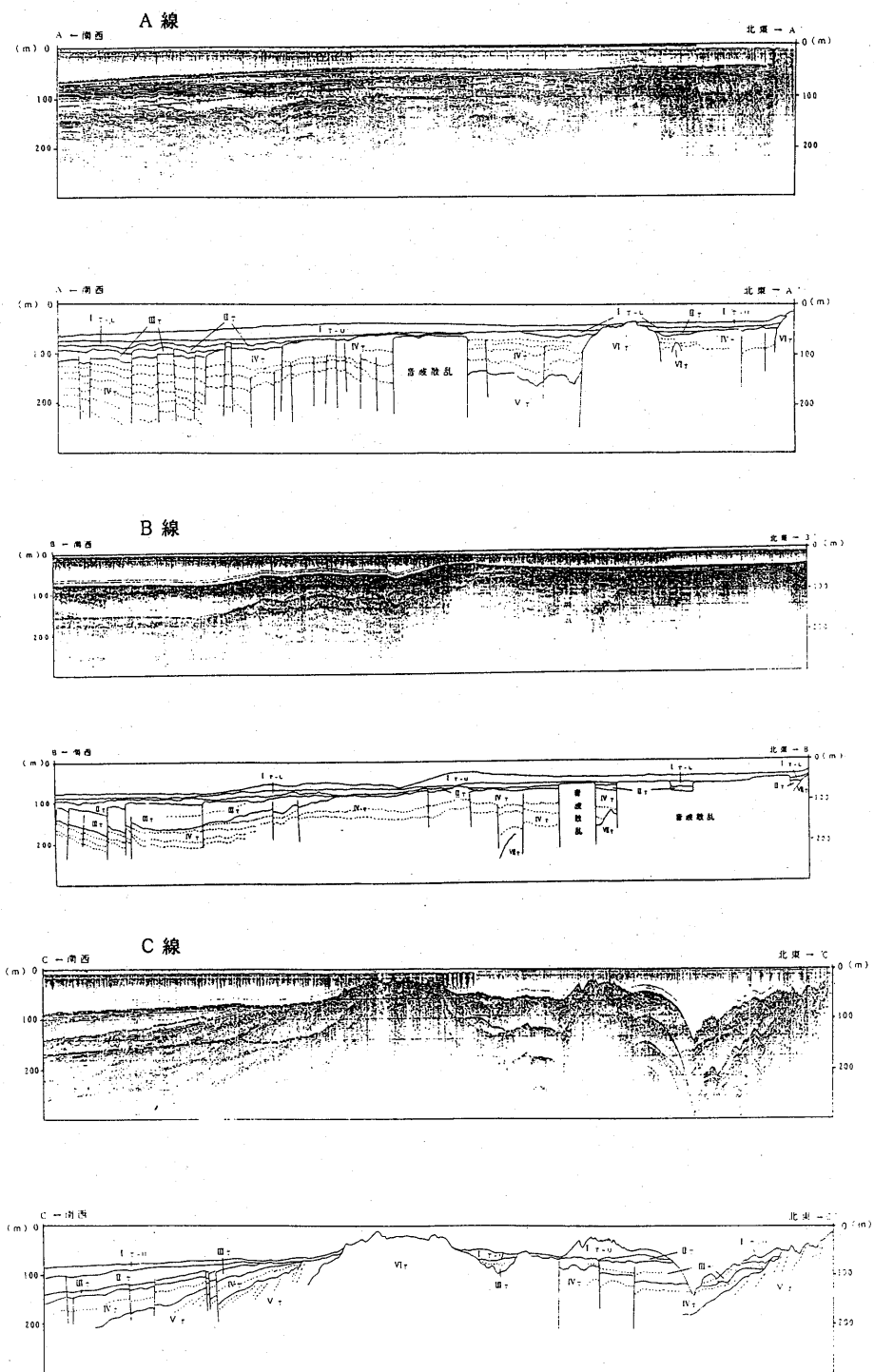
第 1 図 海底地質構造図

Fig. 1 Submarine Geological Structure Chart



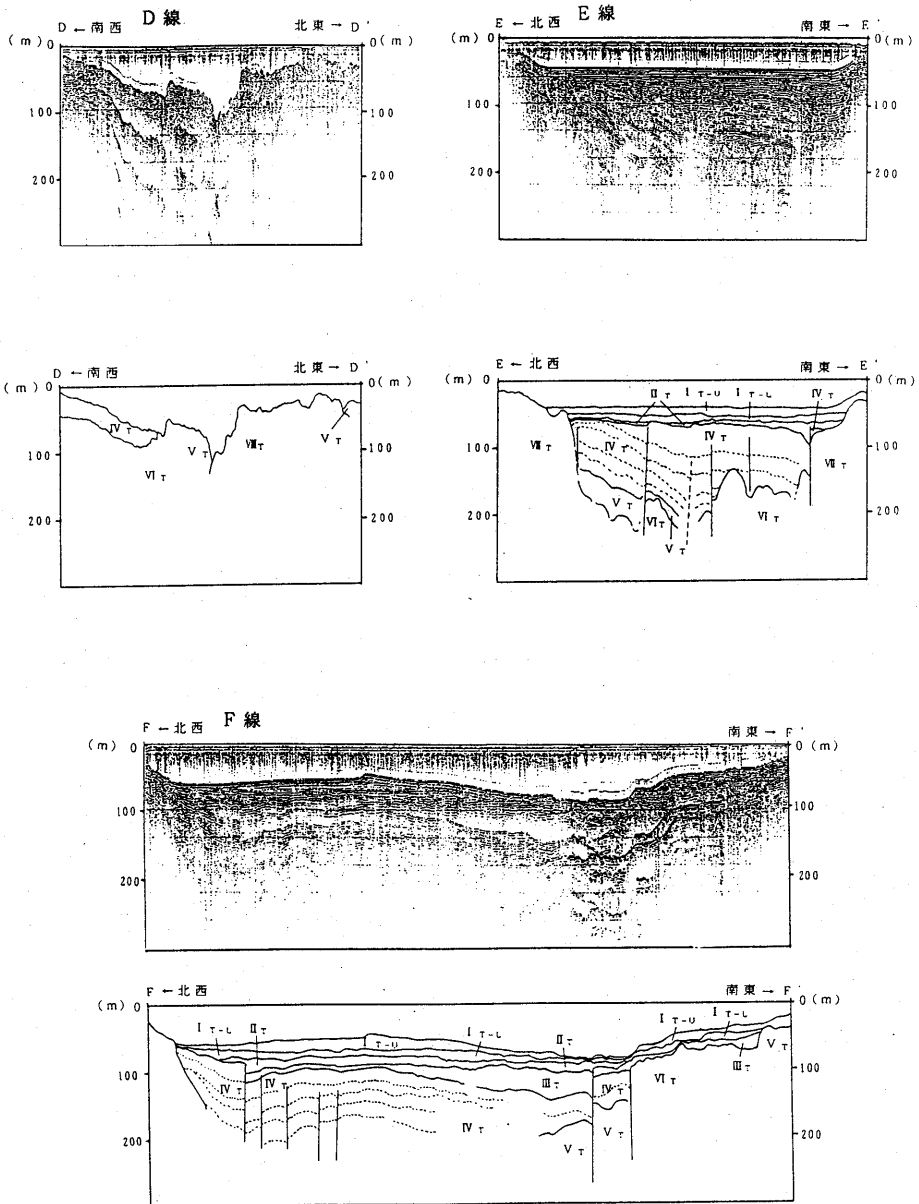
第 2 図 音波探査記録位置図

Fig. 2 Location Map of Seismic sections



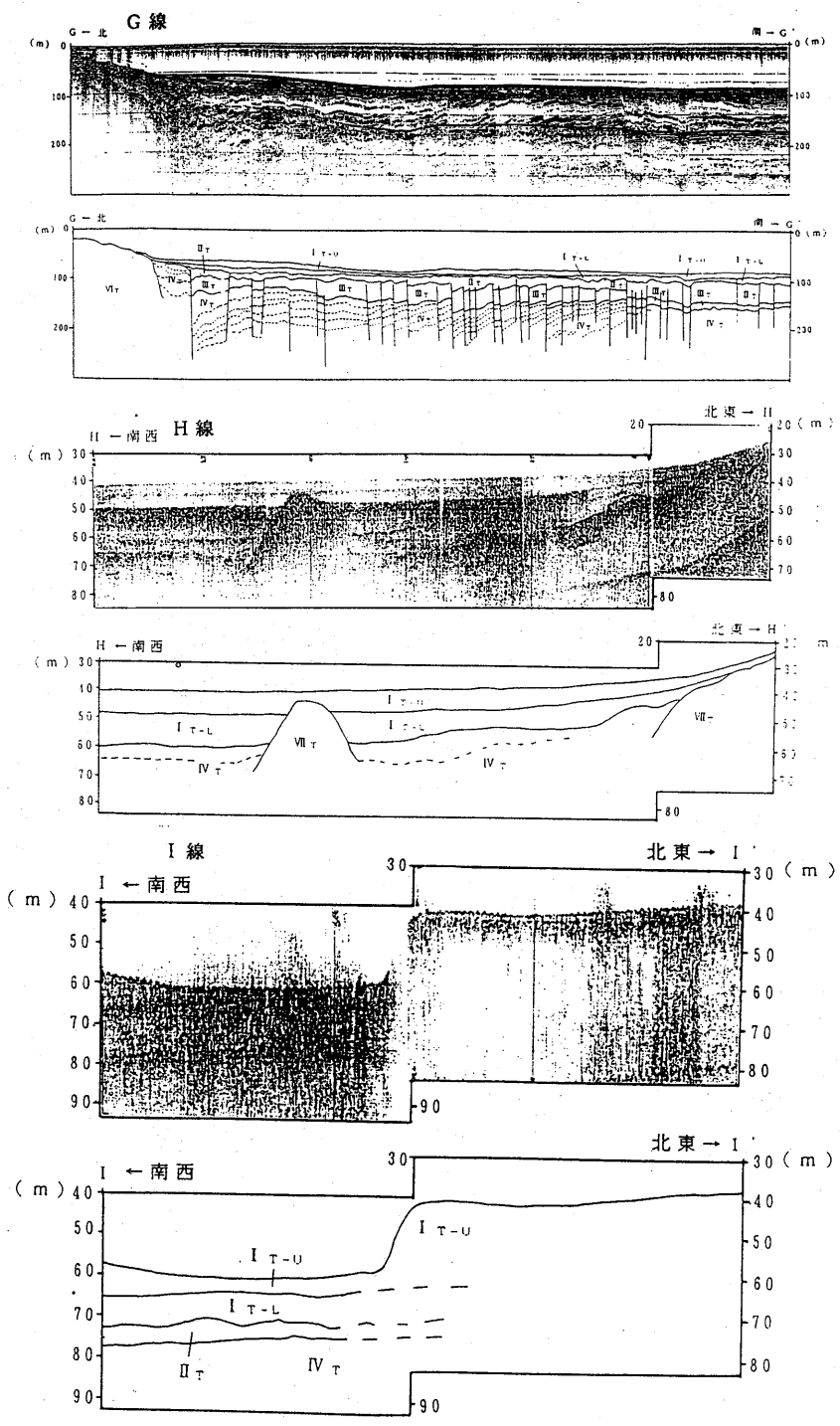
第3図-1 音波探査記説 (A~C) A線 B線 C線

Fig. 3-1 Seismic sections of line A to C and its drawings

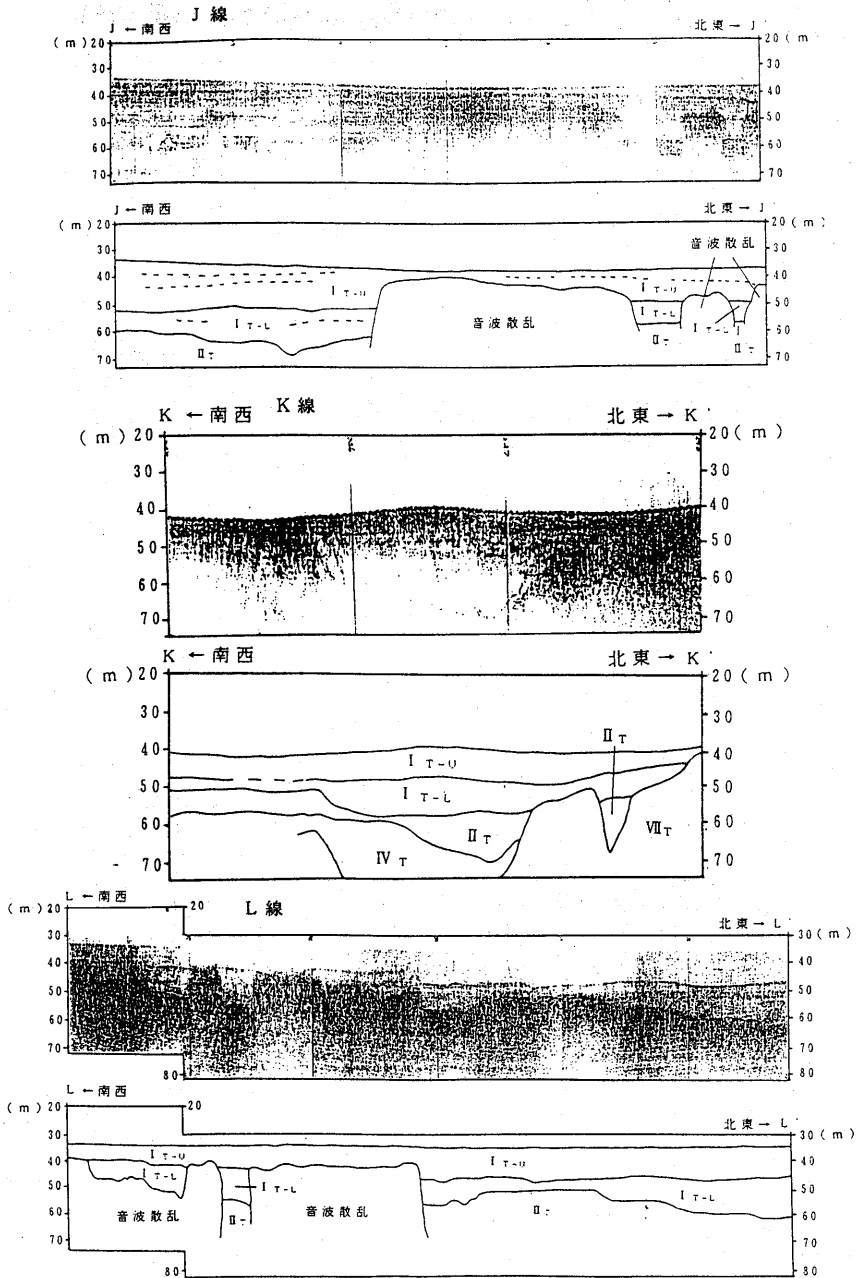


第3図—2 音波探査記録 (D~F) D線 E線 F線

Fig. 3-2 Seismic sections of line D to F and its drawings



第3図-3 音波探査記録 (G~I) G線 H線 I線
 Fig. 3-3 Seismic sections of line G to I and its drawings



第3図-4 音波探查記録 (J ~ L) J線 K線 L線

Fig. 3-4 Seismic sections of line J to L and its drawings